

## 2021年1月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

500hPa 高度をみると、極渦はシベリア側と北米側に分裂し、北極付近で正偏差となった。カナダ北部～中央アジアでは波列パターンが卓越し、カナダ北部で正偏差、ヨーロッパで負偏差となった。200hPa 風速をみると、偏西風は、平年に比べて、北太平洋中緯度帯で北偏、北大西洋中緯度帯で南偏した。海面気圧をみると、グリーンランド～北極付近～西シベリアで正偏差、北大西洋中緯度帯で負偏差となった。850hPa 気温をみると、中央～東シベリアで低温偏差、北米北部、中央アジアで高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、北インド洋熱帯域～インドネシア付近～南太平洋熱帯域の西部、北太平洋熱帯域の中～東部で活発、太平洋赤道域の日付変更線付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半にインド洋～インドネシア付近を東進したが、その後は不明瞭となった。対流圏上層では、太平洋熱帯域の中部で南北半球対の低気圧性循環偏差、インド洋～インドネシア付近で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、インド洋～インドネシア付近、太平洋熱帯域の東部で南北半球対の低気圧性循環偏差、太平洋熱帯域の日付変更線付近で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海

面気圧は、赤道域では、太平洋中～東部で正偏差、インド洋～太平洋西部、大西洋で負偏差となった。南方振動指数は+1.4だった。

### 世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.24℃（速報値）であった。1月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.79℃/100年（速報値）である。

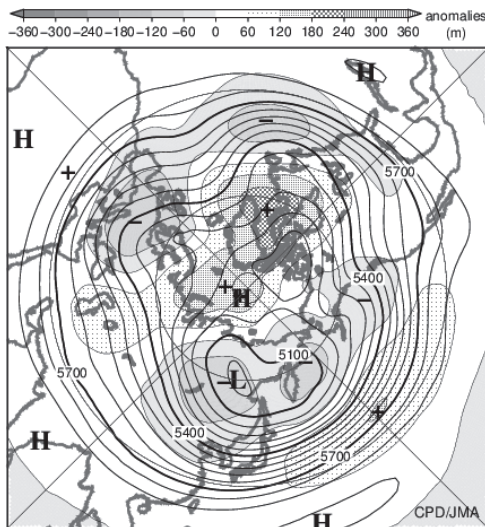
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中国南西部～インド南部、中東中部～北アフリカ北部、西アフリカ西部～南部、マダガスカル及びその周辺、北米東部、中米西部～南部、オーストラリア北部～西部で異常高温となった。
- 東南アジア中部及びその周辺、インド南部及びその周辺、ヨーロッパ及びその周辺、南米南部で異常多雨、中央アジア南部及びその周辺で異常少雨となった。

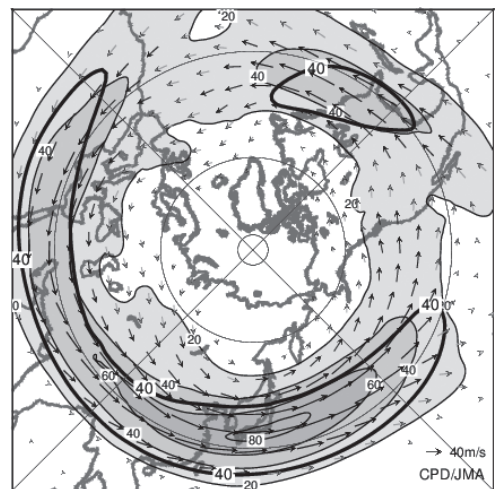
（気象庁 大気海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

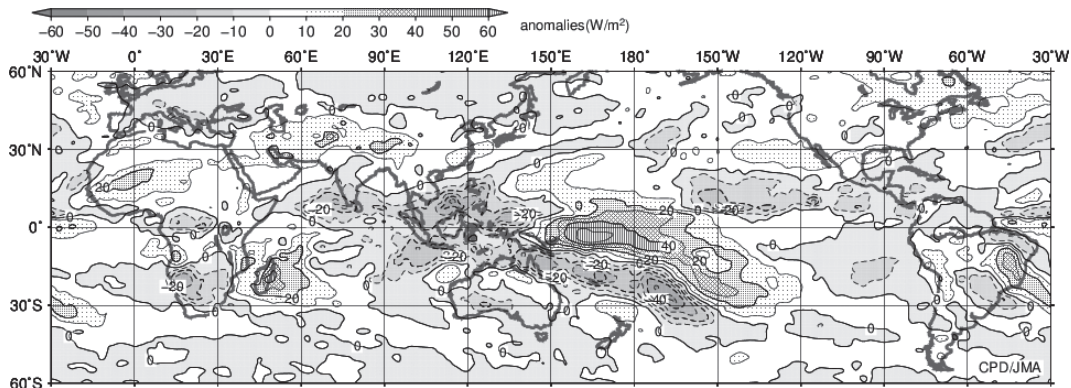
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2021年1月の北半球月平均500hPa 高度及び  
 年偏差  
 等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年値は  
 1981～2010年の平均値。

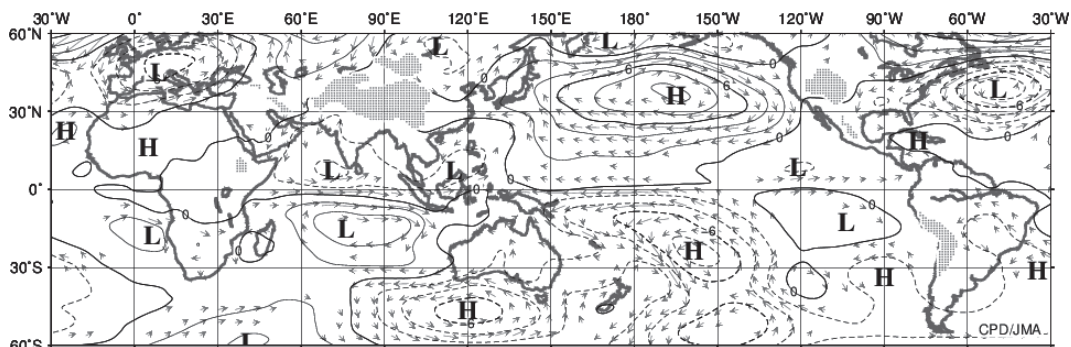


2021年1月の北半球月平均200hPa 風速及び  
 風ベクトル  
 等値線間隔は20m/s。太実線は年々の風速で等  
 値線間隔は40m/s。年値は1981～2010年の平均値。



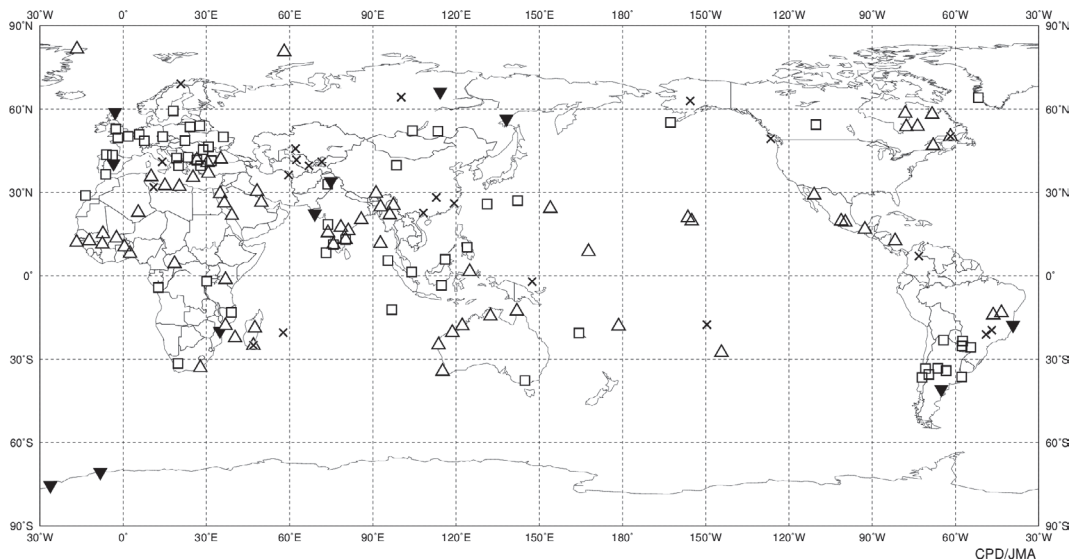
2021年1月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は $10\text{W/m}^2$ で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2021年1月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2021年1月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。